
TWAIN ドライバー

ユーザーズガイド

目次

1	はじめに	
1.1	動作環境	1-1
2	TWAIN ドライバーのインストール	
2.1	インストール方法	2-1
	インストールの手順	2-1
2.2	アンインストールする場合	2-1
3	画像の読み込み	
3.1	読み込みの手順	3-1
	読み込みの手順	3-1
3.2	プッシュスキャンで読み込む	3-4
	プッシュスキャンで読み込む	3-4
3.3	プレスキャンで読み込む	3-5
	プレスキャンで読み込む	3-5
3.4	ユーザー認証が必要な場合	3-7
	ユーザー認証を行う	3-7
3.5	部門認証が必要な場合	3-8
	部門認証を行う	3-8
3.6	メインダイアログ画面の設定	3-9
3.7	[設定] タブでできること	3-10
3.8	[イメージ] タブでできること	3-12
3.9	[領域] タブでできること	3-13
4	読み込み先の機器を選択する	
	読み込み先の機器を選択する	4-1
5	読み込み先の機器を新しく登録する	
	読み込み先の機器を新しく登録する	5-1
5.1	認証情報を確認する	5-4

本製品について

TWAIN ドライバーを使うと、MFP（複合機）をネットワークスキャナーとして使用できます。コンピューターの画像処理アプリケーションソフトウェアからスキャンしてデータを取り込み、加工や編集をすることができます。

登録商標および商標

商標について

Microsoft®、Windows® は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

RSA® BSAFE™

RSA は RSA Security Inc. の登録商標です。BSAFE は RSA Security Inc. の米国およびその他の国における登録商標です。



ライセンス情報

本製品は、RSA Security Inc. の RSA® BSAFE™ ソフトウェアを搭載しています。

その他の会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。

画面について

本書に掲載する画面は、Windows XP の画面を使用しています。



ワンポイント

装置や設定によって、本書に記載されている画面の内容と異なる場合があります。あらかじめご了承ください。

ご注意

本書の一部またはすべての内容を、無断で複製したり、他言語に翻訳したり、引用したりすることは、固くお断りします。

本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがありますので、ご了承ください。

Copyright © 2005 KONICA MINOLTA BUSINESS TECHNOLOGIES, INC. All rights reserved.

LICENSE ISSUES

The OpenSSL toolkit stays under a dual license, i.e. both the conditions of the OpenSSL License and the original SSLeay license apply to the toolkit.

See below for the actual license texts. Actually both licenses are BSD-style Open Source licenses. In case of any license issues related to OpenSSL please contact openssl-core@openssl.org.

OpenSSL License

Copyright © 1998-2001 The OpenSSL Project. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgment:
"This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit. (<http://www.openssl.org/>)"
4. The names "OpenSSL Toolkit" and "OpenSSL Project" must not be used to endorse or promote products derived from this software without prior written permission. For written permission, please contact openssl-core@openssl.org.
5. Products derived from this software may not be called "OpenSSL" nor may "OpenSSL" appear in their names without prior written permission of the OpenSSL Project.
6. Redistributions of any form whatsoever must retain the following acknowledgment: "This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (<http://www.openssl.org/>)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE OpenSSL PROJECT "AS IS" AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE OpenSSL PROJECT OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com). This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

Original SSLeay License

Copyright © 1995-1998 Eric Young (eay@cryptsoft.com) All rights reserved.

This package is an SSL implementation written by Eric Young (eay@cryptsoft.com).

The implementation was written so as to conform with Netscapes SSL.

This library is free for commercial and non-commercial use as long as the following conditions are adhered to. The following conditions apply to all code found in this distribution, be it the RC4, RSA, lhash, DES, etc., code; not just the SSL code. The SSL documentation included with this distribution is covered by the same copyright terms except that the holder is Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

Copyright remains Eric Young's, and as such any Copyright notices in the code are not to be removed.

If this package is used in a product, Eric Young should be given attribution as the author of the parts of the library used.

This can be in the form of a textual message at program startup or in documentation (online or textual) provided with the package.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement:
"This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com)" The word 'cryptographic' can be left out if the routines from the library being used are not cryptographic related.
4. If you include any Windows specific code (or a derivative thereof) from the apps directory (application code) you must include an acknowledgement: "This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY ERIC YOUNG "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

The licence and distribution terms for any publically available version or derivative of this code cannot be changed. i.e. this code cannot simply be copied and put under another distribution licence [including the GNU Public Licence.]

1 はじめに

1.1 動作環境

このソフトウェアを使うには、あらかじめコンピューターに以下のソフトウェアをインストールしてください。

- TWAIN ドライバー
- TWAIN に対応した画像処理アプリケーションソフトウェア

対応 OS	Windows NT Workstation 4.0 (SP6a 以降) Windows NT Server 4.0 (SP6a 以降) Windows 2000 Professional (SP4 以降) Windows XP Home Edition (SP3 以降) Windows XP Professional (SP3 以降) Windows Vista Home Basic (SP2 以降)* Windows Vista Home Premium (SP2 以降)* Windows Vista Business (SP2 以降)* Windows Vista Enterprise (SP2 以降)* Windows Vista Ultimate (SP2 以降)* * 32 ビット (x86) 環境に対応。
コンピューター	OS の仕様に準ずる
メモリー	OS の仕様に準ずる
ネットワーク	TCP/IP プロトコルの設定が正しく行われているコンピューター
ハードディスク	20 MB 以上の空き容量が必要

2 TWAIN ドライバーのインストール

2.1 インストール方法

TWAIN ドライバーのインストールは以下の手順で行います。

インストールには付属の User Software CD-ROM が必要です。

インストールの手順

- 1 コンピューターの電源を入れて Windows を起動します。
- 2 コンピューターの CD-ROM ドライブに User Software CD-ROM をセットします。
CD のメニューが表示されます。
- 3 「スキャナーのインストール」 から 「TWAIN ドライバー」 を選択し、画面の指示にしたがって操作します。
インストールが開始され、必要なファイルがコピーされます。
コピーが終了すると、インストールの完了画面が表示されます。
- 4 [完了] をクリックします。
TWAIN ドライバーのインストールが終了しました。

2.2 アンインストールする場合

TWAIN ドライバーをアンインストールするには、以下の 2 つの方法があります。

- 「プログラムの追加と削除」(Windows 2000 の場合は「アプリケーションの追加と削除」) を使用する
- 「Setup.exe」 をもう一度実行する



ご注意

アンインストールを行うときは、TWAIN ドライバーを終了しておいてください。

3 画像の読み込み

3.1 読み込みの手順

画像の読み込みは、TWAIN スキャナードライバーに対応した画像処理アプリケーションソフトウェアから行います。ここでは、Adobe Photoshop の例で説明します。



ご注意

MFP 側でスキャナー送信を禁止するよう設定されている場合、TWAIN ドライバーで画像を読み込むことができません。

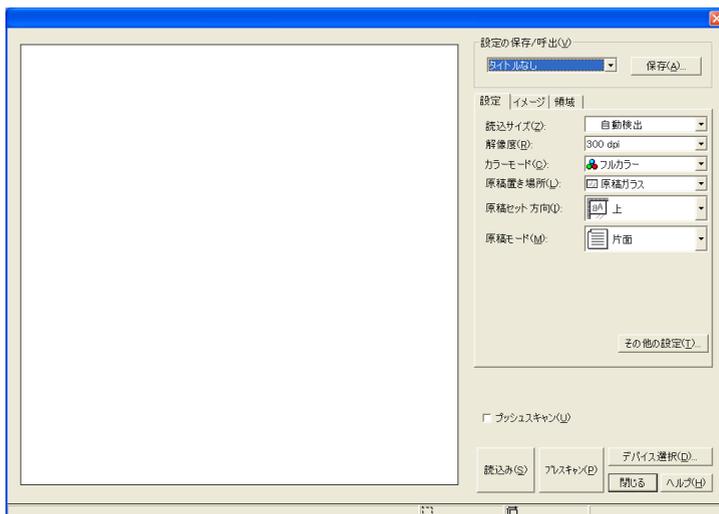
読み込みの手順

- 1 画像処理アプリケーションソフトウェアを起動します。
- 2 [ファイル] メニューから [読み込み] を選択し、お使いの TWAIN ドライバーを選択します。
 - アプリケーションによっては「対応機器の選択」というコマンドが表示されているものもあります。
この場合、いったん「対応機器の選択」でお使いの TWAIN ドライバーを選択し、読み込みの操作を行ってください。
デバイス選択画面が表示されます。
- 3 接続する機器を選択し、[接続] をクリックします。



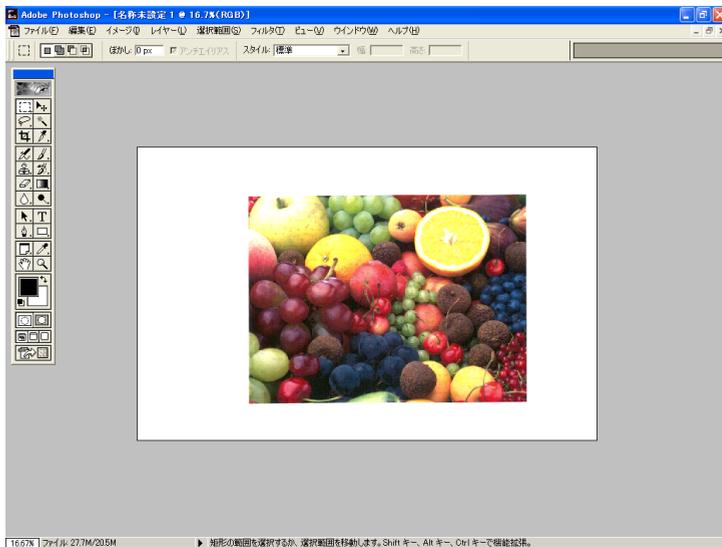
- MFP 側でユーザー認証や部門認証を設定している場合、それぞれの認証画面が表示されます。詳しくは、「ユーザー認証が必要な場合」(p. 3-7)、「部門認証が必要な場合」(p. 3-8)をごらんください。
- ログインするユーザーに対して、スキャナー送信を禁止するよう MFP で設定されている場合、画像を読み込むことができません。

メインダイアログ画面が開きます。



- 4 スキャンの設定を行います。
 - メインダイアログ画面の詳しい説明については、「メインダイアログ画面の設定」(p. 3-9)をごらんください。
- 5 ADF または原稿ガラス上に原稿をセットします。

- 6 「読み込み」 をクリックします。
原稿がスキャンされ、画像が表示されます。

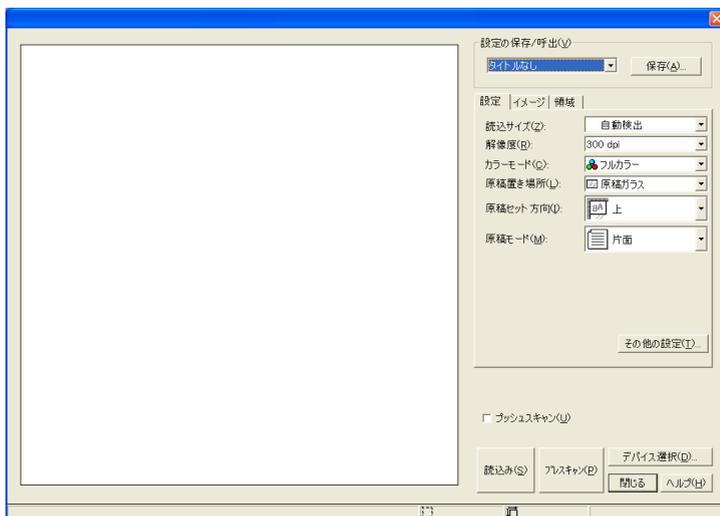


3.2 プッシュスキャンで読み込む

原稿を読み込むとき、操作パネルの【スタート】を押して開始するスキャン方法です。

プッシュスキャンで読み込む

- 1 メインダイアログ画面を表示させます。
 - メインダイアログ画面を表示させる方法については、「読み込みの手順」(p. 3-1) をご覧ください。

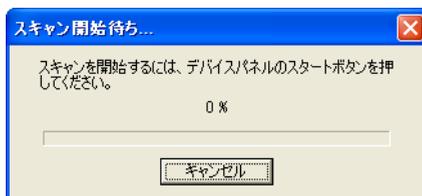


2 [プッシュスキャン] にチェックを付けます。

3 スキャンの設定を行います。

4 [読み込み] をクリックします。

スキャンの準備ができると、原稿をセットするように促すメッセージが表示されます。



- 5 ADF または原稿ガラス上に原稿をセットします。
- 6 操作パネルの【スタート】を押します。
 - ユーザー認証などが設定されているときは、本体の操作パネルでもユーザー名やパスワードを入力してから【スタート】を押してください。原稿がスキャンされ、画像が表示されます。

3.3 プレスキャンで読み込む

スキャンする領域を指定したり画質の調整を行ってからスキャンしたいときに、プレスキャンを行ってから読み込みます。

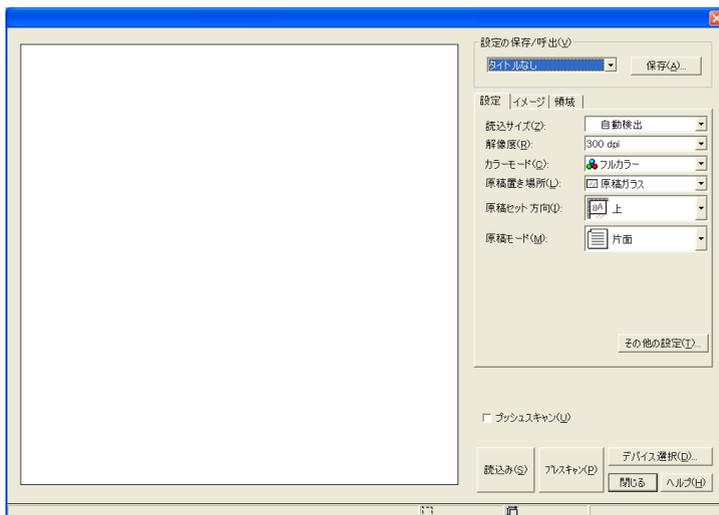


ご注意

原稿は原稿ガラス上にセットしてください。ADF は使用できません。

プレスキャンで読み込む

- 1 メインダイアログ画面を表示させます。
 - メインダイアログ画面を表示させる方法については、「読み込みの手順」(p. 3-1) をご覧ください。



- 2 [設定] タブの [原稿置き場所] で [原稿ガラス] を選択します。

- 3 原稿ガラス上に原稿をセットします。
- 4 [プレスキャン] をクリックします。
原稿が荒めの解像度でスキャンされ、ウィンドウに表示されます。



- 5 スキャンの設定を行います。
- 6 [読み込み] をクリックします。
原稿がスキャンされ、画像が表示されます。

3.4 ユーザー認証が必要な場合

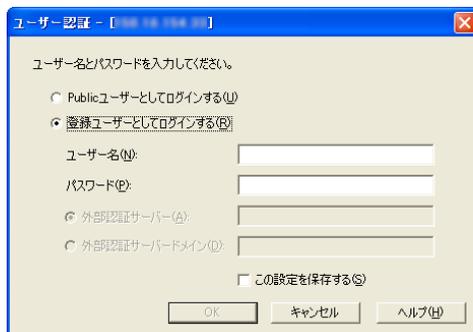
メインダイアログ画面を開く前に、ユーザー認証画面が表示されることがあります。

ユーザー認証にはあらかじめ設定されたユーザー名とパスワードが必要です。

詳しくは管理者にお問合わせください。

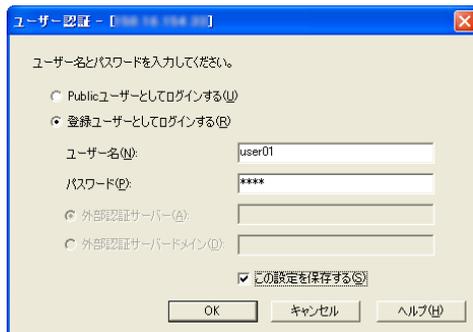
ユーザー認証を行う

- 1 「登録ユーザーとしてログインする」を選択します。



- ユーザー認証の設定時に、パブリックユーザーが認められている場合には、ユーザー名、パスワードを入力せずに使用できます。「Publicユーザーとしてログインする」を選択してください。
- 入力した情報を保存する場合は「この設定を保存する」にチェックを付けます。次回のアクセスからユーザー名の入力をしなくてもアクセスできるようになります。

- 2 ユーザー名、パスワードを入力して「OK」をクリックします。



- MFP のユーザー認証設定で外部サーバー認証を選択し、複数のドメインを登録している場合、ユーザー名の後ろに「@ドメイン名」を入力してください。
例：ユーザー名が user@1、ドメイン名が domain の場合：
user@1@domain

3.5 部門認証が必要な場合

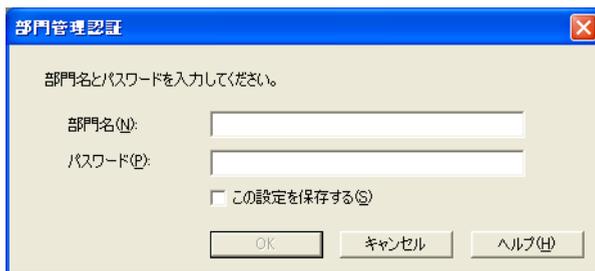
メインダイアログ画面を開く前に、部門認証画面が表示されることがあります。

部門認証にはあらかじめ設定された部門名とパスワードが必要です。

詳しくは管理者にお問合わせください。

部門認証を行う

- 1 部門名、パスワードを入力します。



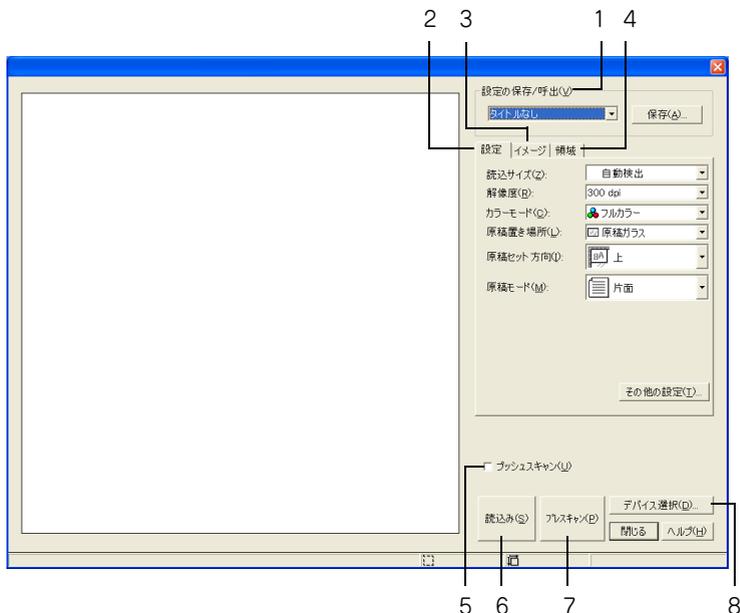
- 入力した情報を保存する場合は「この設定を保存する」にチェックを付けます。次回アクセスから部門名の入力をしなくてもアクセスできるようになります。

- 2 [OK] をクリックします。



3.6 メインダイアログ画面の設定

メインダイアログ画面で設定できる項目は以下のとおりです。



No.	項目	説明
1	設定の保存 / 呼出	決まった設定内容などをまとめて保存できます。あらかじめ保存した設定を呼び出すこともできます。
2	設定	スキャンの基本的な内容の設定を行います。詳しくは、「[[設定] タブでできること」(p. 3-10) をごらんください。
3	イメージ	画像の処理に関する設定を行います。詳しくは、「[[イメージ] タブでできること」(p. 3-12) をごらんください。
4	領域	スキャンする領域を指定できます。詳しくは「[[領域] タブでできること」(p. 3-13) をごらんください。
5	ブッシュスキャン	読み込みを開始するとき、操作パネルの【スタート】を押してスキャンを始めるときにチェックを付けます。
6	読み込み	スキャンを始めるときにクリックします。
7	プレスキャン	原稿を原稿ガラス上にセットするとき、荒めの解像度で画像を確認できます。プレスキャンをして画像の調整をしたり、領域を決めてから【読み込み】をクリックすれば効率的にスキャンできます。
8	デバイス選択	読み込み先の機器を変更するときにクリックします。詳しくは、「読み込み先の機器を選択する」(p. 4-1) をごらんください。

3.7 [設定] タブでできること

設定できる項目は以下のとおりです。



項目	説明
読み込みサイズ	スキャンする用紙のサイズを選択します。
解像度	スキャンする解像度を指定します。  ... ひとつこと TWAIN ドライバーから 100 dpi を指定してスキャンした場合、MFP の操作パネルまたは MFP のジョブリストでは、200 dpi と表示されます。
カラーモード	カラーモードを選択します。  ... ひとつこと ログインしているユーザーまたは部門に対して、カラードキュメントの送信を禁止するよう MFP で設定されている場合、「フルカラー」は表示されません。
原稿置き場所	ADF にセットするか、原稿ガラス上にセットするかを選択します。
原稿セット方向	セットする原稿の向きを選択します。
原稿モード	片面をスキャンするか両面をスキャンするかを選択します。

[その他の設定] をクリックすると、さらに以下の内容を設定できます。

項目	説明
圧縮方法	スキャンしたデータの圧縮方法を選択します。
原稿画質	文字、写真など原稿の画質を選択します。
下地調整	下地の濃さを調整します。手動で調整するときは「マニュアル」を選択し、つまみをドラッグして数値を指定します。

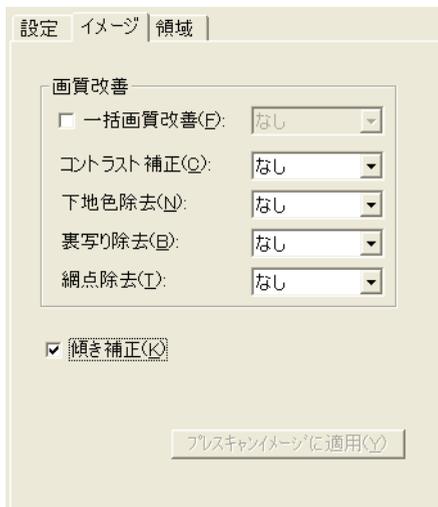


ご注意

MFPによっては、圧縮方法が選択できない場合があります。詳しくは、お使いのMFPのユーザーズガイドをごらんください。

3.8 [イメージ] タブでできること

設定できる項目は以下のとおりです。



項目	説明
一括画質改善	チェックを付けると、このタブで設定できる全ての画質調整を自動的に行います。
コントラスト補正	コントラストの強さを選択します。
下地色除去	下地色除去の強さを選択します。
裏写り除去	裏写り除去の強さを選択します。
網点除去	網点除去の強さを選択します。
傾き補正	画像の傾きを自動的に調整します。
プレスキャンイメージに適用	プレスキャンした画像が表示されているときに選択できます。「画質改善」で設定した内容を表示エリアの画像に反映します。

3.9 [領域] タブでできること

領域の指定ができるのはブレスキャン画像が表示されているときだけです。

現在表示されている点線のエリアの座標や位置を確認、指定できます。

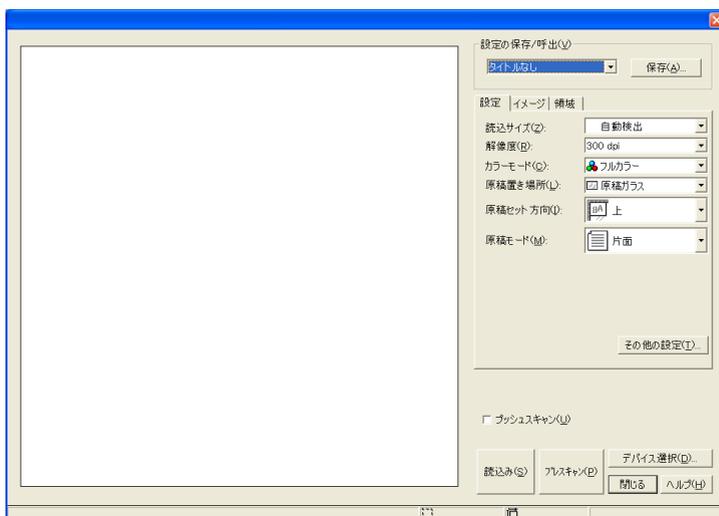
項目	説明
原点X	X方向の原点の数値を表示します。
原点Y	Y方向の原点の数値を表示します。
幅	画像の幅を表示します。
高さ	画像の高さを表示します。
単位	数値の単位を選択します。

4 読み込み先の機器を選択する

ネットワーク上で読み込み可能な機器を探し、選択します。初めてネットワーク上で検索をするときや、新しく追加された機器を探すときなどに使用します。

読み込み先の機器を選択する

- 1 メインダイアログ画面を表示させます。
 - メインダイアログ画面を表示させる方法については、「読み込みの手順」(p. 3-1) をごらんください。



- 2 [デバイス選択] をクリックします。
デバイス選択画面が表示されます。

- 3 機器の選択の方法を指定します。「検索結果から選択」または「登録リストから選択」のどちらかを選択します。



- 4 [検索結果から選択] をクリックして選択します。
自動的に検索が始まり、選択できる機器の一覧が表示されます。



- 5 機器名をクリックして選択し、[接続] をクリックします。
- 接続するときに登録もしてしまうときは [接続時に登録リストへ追加する] にチェックを付けます。
 - 接続先の機器がユーザー認証を行っている時はユーザー名やパスワードを入力します。
- デバイス選択画面が閉じて、メインダイアログ画面にもどります。



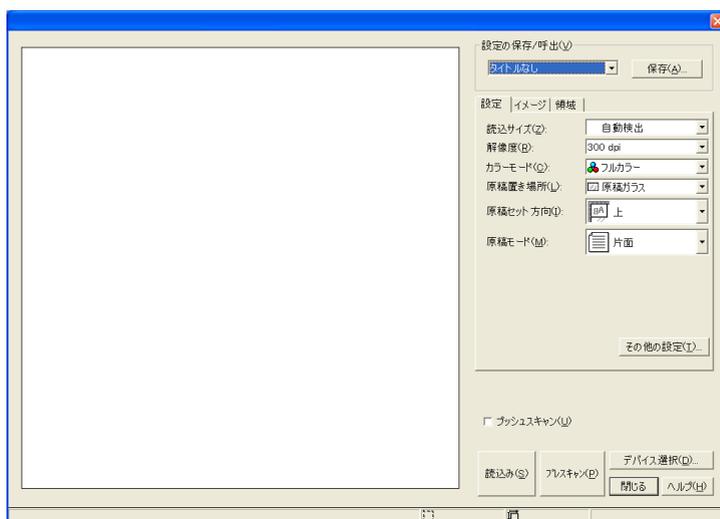
5 読み先の機器を新しく登録する

現在つながっている機器をリストに登録できます。接続のたびに検索する手間を省くことができます。

リストに登録できる機器の数は 20 個までです。

読み先の機器を新しく登録する

- 1 メインダイアログ画面を表示させます。
 - メインダイアログ画面を表示させる方法については、「読み込みの手順」(p. 3-1) をご覧ください。

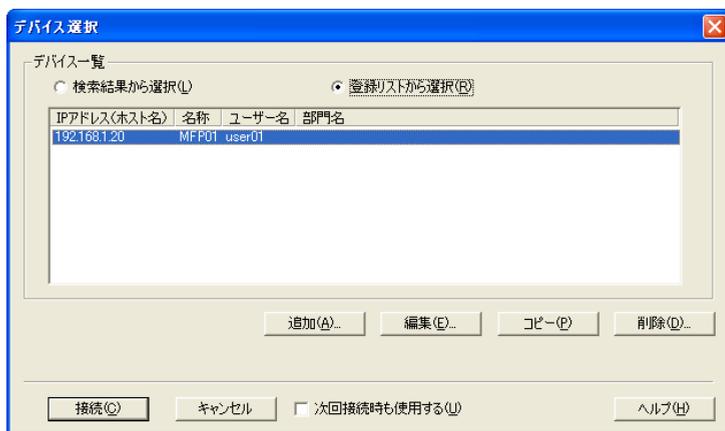


- 2 [デバイス選択] をクリックします。
デバイス選択画面が表示されます。

3 「登録リストから選択」を選択します。

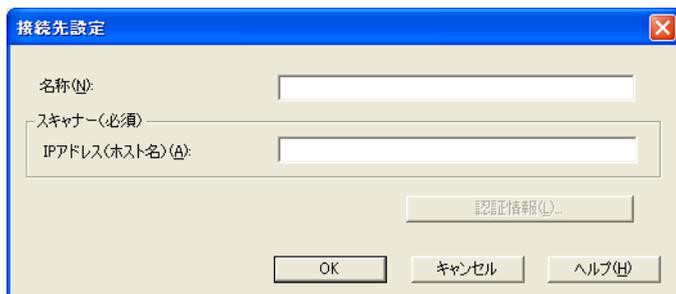


4 [追加] をクリックします。



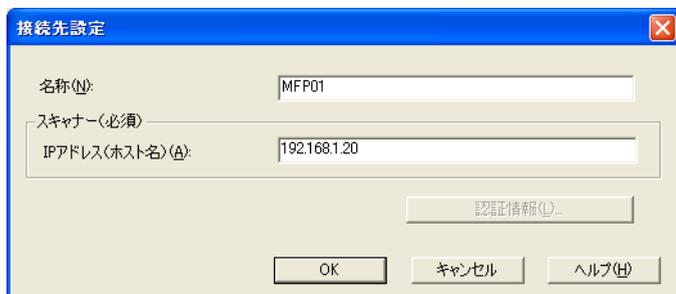
接続先設定画面が開きます。

5 機器の情報を入力します。



- 「名称」には、機器の名称を入力します。
- 「IP アドレス (ホスト名)」には、機器の IP アドレスまたはホスト名を入力します。
- ユーザー認証、部門認証などが設定されている場合、[認証情報] をクリックすると、認証情報を確認できます。

6 [OK] をクリックします。



5.1 認証情報を確認する

接続先設定画面で「認証情報」をクリックすると、登録されている認証情報が表示されます。



項目	説明
ユーザー認証	ユーザー認証のユーザー名とパスワードが表示されます。パスワードは「****」と表示されます。
部門管理	部門管理の部門名とパスワードが表示されます。パスワードは「****」と表示されます。
認証情報をクリア	現在登録されている認証情報をクリアするときにクリックします。

Copyright

2005 KONICA MINOLTA BUSINESS TECHNOLOGIES, INC.

All rights reserved.